



学会誌における生成 AI の関与と役割について

近年、人工知能（AI）の発展は、われわれの社会に大きな影響を与えています。医学分野も例外ではありません。特に生成 AI（Generative AI）の進歩は目覚ましいものがあり、学術研究の世界でもその存在感が増しています。

生成 AI は、深層学習技術の進歩により、画像、音声、テキストなど、さまざまなデータ形式で効果的に活用されています。そのなかでも、自然言語処理の分野での応用が特に注目されています。生成 AI は、大規模なデータセットを用いてトレーニングされ、人間のように新しい情報や表現を生成する能力を持っています。これにより、文章の生成、要約、翻訳、質問応答などのタスクにおいて高い精度を実現しています。

医学分野においても、生成 AI はさまざまな応用が期待されています。例えば、医療画像（X 線、MRI、CT など）の解析において優れた性能を発揮しています。また、生成 AI を用いた深層学習アルゴリズムは、がんの早期発見や病変の自動検出に役立ちます。さらに、生成 AI は医師による診断支援にも活用され、病理学的な特徴の抽出や診断の精度向上に貢献しています。

学術誌の編集作業において、生成 AI が新たな展開をもたらす可能性があります。学術誌は、学術研究の成果を広く共有し、学術的な議論を促進する重要な媒体です。そのため、学会誌の編集作業は精緻かつ責任あるプロセスを要します。生成 AI は、このプロセスにさまざまな役割を果たすことができます。例えば文章校正と編集支援です。生成 AI は、文章の文法的なエラーや表現の改善を行うためのツールとしてきわめて有用です。投稿された原稿を生成

AI によって校正し、編集者による最終的な修正作業の効率化を図ることができます。あるいは、論文の内容を要約し、異なる言語に翻訳する際にも有用です。多言語対応の生成 AI モデルを活用することで、学術誌の国際化と多様性を促進することが期待されます。さらに、大量の医学文献から新たな知見を抽出するためのツールとしても活用されます。文献の自動要約や新たな研究テーマの特定などのタスクにおいて、生成 AI が医師や研究者を支援することが期待されます。

一方、生成 AI の導入にはいくつかの課題も存在します。まず第一に、生成された文章の信頼性や品質の問題が挙げられます。生成 AI モデルが特定のトレーニングデータに偏ってしまった場合、意図しない結果を生成する可能性があります。いわゆる「もっともらしいウソをつく」ツールになりえます。また、生成された文章が原著者の意図と異なる場合、著作権や著作者の権利の問題が生じる可能性があります。さらに、生成 AI の導入には倫理的な考慮も必要です。自動要約モデルが研究データを適切に要約することができない場合、誤解を招く可能性があります。また、生成された文章が偽情報やバイアスを含む場合、学術的な信頼性が損なわれる可能性があります。

『精神神経学雑誌』の編集委員として、われわれはこれらの課題を十分に理解し、生成 AI の導入に際しては慎重かつ責任ある対応を取る必要があります。生成 AI は学術誌の編集作業に革新をもたらす可能性を秘めていますが、その導入には十分な検討と配慮が欠かせません。編集委員会では引き続き、技術の進歩と学術の発展を支えるために努めてまいります。

（古郡規雄）